

2020～2050 循環革命における 地域社会の未来像を描く全国研究フォーラム ～地元から世界を創り直す～

開催委員長 藤山 浩 (一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長)
総括アドバイザー 谷口 守 (筑波大学システム情報系社会工学域・教授 (近未来計画学研究室))



持続地域総研では、全国各地で地域の未来像を見える化するレゴ・ワークショップを開いています。写真は今年7月に佐賀市三瀬で実施したものです。

◆会場
天空の宿おおなん
いこいの村しまね
島根県邑智郡邑南町高水2467-10

◆参加者総数(予定)
70名
(講師および主催・共催関係者を含む)
※メイン会場定員の50%で
開催の予定です。

参加者募集！ (原則全日程の参加をお願いします)

プログラム

2021年11月13日(土) 13:00～19:30

第1部「課題提起 ～循環革命の必要性と可能性」

第2部「エネルギー革命を起こす」

第3部「交通革命を起こす」

2021年11月14日(日) 9:00～11:40

第4部「新しい暮らしの風景へ～進化の30年を始動する」

◆参加費(資料集代・消費税込み) ※当日参加できない方へ資料集のみの申し込みも可能です。

一般参加...4,000円/次世代特別参加(25歳以下)...1,000円

主催者・共催者(邑南町民及び島根県立大学学生及び教職員)参加...無料

オプション 1日目軽食...500円

※宿泊は近隣市町村(邑南町・浜田市等)にて各自ご手配をお願いします。
(会場のいこいの村しまねは、満室となっております)

◆お申し込み方法

研究所内特設WEBページ https://www.susarea.jp/news/app/20210906_01.html にある申し込みフォームからお申し込みください。資料集のみの申し込みもこちらから。
※申し込み用紙をダウンロードの上、以下メールでも申し込みいただけます。

◆申し込み締切 2021年10月31日(ただし定員に達しだい締め切ります)

特設サイトは
こちらから



■お問い合わせ■ 一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所

〒699-3671 島根県益田市津田町1401 Tel(0856)55-1011 Email:event-susarea@susarea.jp

◆開催趣旨

コロナ危機が続く中、**循環型社会への転換**が「待ったなし」となっています。

昨年10月、日本政府は、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すことを表明しました。これは、今後30年間で、循環型社会へと進化していくことを意味しています。この2020年代において革命的な進化を始動できるかどうか、私たちの未来はかかっているでしょう。政府は、本年4月、2030年度における温室効果ガス削減目標を13年度比で46%削減に引き上げると発表し、「**地域脱炭素ロードマップ**」の第一弾として、全国で少なくとも100か所の脱炭素先行地域をつくり、2030年までの脱炭素達成を打ち出そうとしています。

このような循環型社会への抜本的進化＝「**循環革命**」は、従来の「**大規模・集中・グローバル**」一辺倒のシステムで見られたように、トップダウンの中央から画一的な手法で達成できるものではありません。大規模に集中させることは生産・消費・廃棄のどの面からも循環を破壊する方向に働き、グローバルな輸送はそれ自体大きな環境負荷を発生させます。今までの成長志向の社会や経済の中で顧みられなかった「**小規模・分散・ローカル**」システムを更生させ、多様な地域に根ざした循環をボトムアップ的に積み上げていく必要があるのではないのでしょうか。

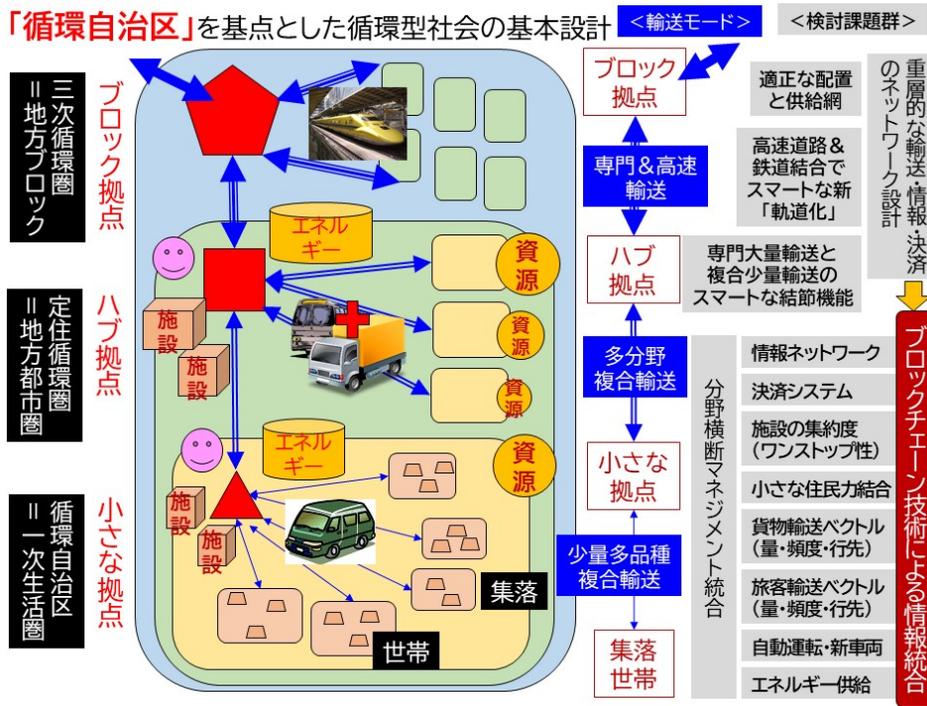
地元から世界を創り直す。私たちに迫られている「**循環革命**」は、社会・経済・暮らしの根本的な再構築を不可避なものとしています。生き物のすべては、「細胞」という原初的な循環圏から成り立っています。フォーラムでは、循環型社会を構成する一番基本的な地域循環圏を想定し、それを**新たな地元＝「循環自治区」**と名付け、その設計原理や運営手法から、分野を横断した包括的な視点～社会技術＋工学技術＋生態技術＋情報技術～に基づき、循環型社会への具体的な進化の道筋を検討していきたいと考えています。

特に、今まで条件不利とされてきた分散的居住が優越する中山間地域こそ、循環革命を先行する可能性があると考え、そこから社会全体を変えていく「**縁辺革命**」の**出発点を描く**ことが出来ればと願っています。

この半世紀以上にわたり、経済成長優先で続いてきたこの国の「一極集中」により、一番破壊されてきたものは、**地域社会の暮らし、循環、自己決定権**ではないでしょうか。今こそ、記憶と風景が紡がれる暮らし、確かな共生に基づく循環、一人一人の力を引き出す自治のあり方を、地元から築き直す時代です。

世界を無数の地元から出来ている。だからこそ、世界は、多彩で美しくそして強靱なのです。もし、「**循環革命**」が成就するとすれば、そうした**微生物も含めた生きとし生ける存在に満ちた世界**の隅々を巻き込む同時多発の多様な挑戦を、自治体・国そして地球の中で重層的な共有の輪を広げ、加速度的な共進化のうねりを広げていくことが出来た時ではないのでしょうか。

挑戦を始めるためには、まず具体的な未来像と出発点を描き、幅広い人々がそこに進化していく可能性を共有することが不可欠です。今回のフォーラムが、2021年に人々が目覚めたと後世言われるような歴史の小さな一歩になればと心から願っています。



◆開催スケジュール

1日目 11月13日(土)

13:00～開会（受付開始&開場:12:00）できるだけ早めにご来場をお願いします。

13:10
～
14:30

第1部 「課題提起～循環革命の必要性と可能性」 <座長:藤山浩>

- 基調提起:地元から世界を創り直す
～『循環自治区』の必要性と重層的な循環圏構想 <藤山浩>
- 近未来計画学からの視座～生き物から学ぶ地域社会の進化論 <谷口守>
- ◆座長・報告者による意見交換

第2部 <座長:重藤さわ子、事業構想大学院大学・准教授>

「エネルギー革命を起こす」

[導入]『脱炭素』を地域の持続可能性戦略の追い風に <重藤さわ子>

- 1.既存優良技術による地域の脱炭素転換と地域発展
<歌川 学(産業技術総合研究所・主任研究員)>
 - 2.西粟倉村におけるエネルギー自給による自立への挑戦
<上山隆浩(岡山県西粟倉村地方創生特任参事)>
 - 3.エネルギー循環と地域経済循環の両立へ
<豊田知世(島根県立大学地域政策学部・准教授)>
 - 4.エネルギー自立地域を創る～オーストリアに学ぶ
<上園昌武(北海学園大学経済学部・教授)>
- ★意見交換



西粟倉村の地域熱供給施設

15:00
～
17:00

第3部 <座長:谷口守>

「交通革命を起こす」

[導入]『縁辺交通』からはじめる地域の再構築 <谷口守>

- 1.拠点性からみた中山間地域発の新しい移動のかたち
<氏原岳人(岡山大学学術研究院環境生命科学学域・准教授)>
 - 2.小型EVの中山間地での展開に向けた条件整備
<鈴木春菜(山口大学大学院創成科学研究科・准教授)>
 - 3.定額乗合タクシーを中心とした持続可能な移動環境づくり
<森山昌幸(株式会社バイタルリード代表取締役)>
- ★意見交換



EVTUKTUKIに乗る研究フォーラム事務局長
(猪田有弥/ローカル・モビリティ・プロデューサー)

17:30
～
19:30

19:30 1日目終了

2日目 11月14日(日)

第4部 <座長:藤山浩>

「新しい暮らしの風景へ～進化の30年を始動する」

- 2030年、邑南町、ある日曜日の風景
～「小さな拠点」&「緑の住まい」のレゴブロック展示・説明
 - 食とエネルギーによる循環型の地域づくりに向けて
<新田直人(農林水産省 農村振興局 農村政策部
都市農村交流課・調整官)>
 - 進化の30年工程表～新たな制度設計と共進化の
ネットワーク <藤山浩>
 - 地域社会の未来計画を考える <谷口守>
- ★報告・提言への質疑応答 ★全員討論～「進化の30年」へ
★来年度以降の「地域社会の未来像全国フォーラム」に向けて



中国山地の民家

9:00
～
11:30

11:30 閉会

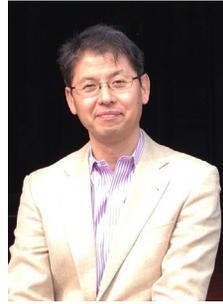
◆登壇者プロフィール&メッセージ

▶開催委員長／第1部・第4部座長

藤山 浩 (ふじやま こう)

一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所 所長

1959年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(マネジメント)。島根県中山間地域研究センター等を経て2017年より現職。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析(人口・経済)、地域づくり支援。著書に「田園回帰1%戦略」、「循環型経済をつくる」、「小さな拠点をつくる」、「日本はどこで間違えたのか」など。



▶総括アドバイザー／第3部座長

谷口 守 (たにぐち まもる) 筑波大学システム情報系社会工学域教授〔近未来計画学研究室〕

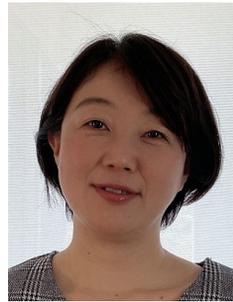
1961年、神戸市生まれ。京都大学大学院工学研究科単位取得退学。工学博士。京都大学工学部助手、カリフォルニア大学バークレイ校客員研究員、岡山大学教授などを経て2009年より現職。政府の社会資本整備審議会委員等を歴任。専門は都市地域計画、交通計画、環境計画。都市計画学会、土木学会、不動産学会等で論文賞受賞。著書に「入門都市計画」「世界のコンパクトシティ」「生き物から学ぶまちづくり」「地域・まちづくりワーク」など。



▶第2部座長

重藤 さわ子 (しげとう さわこ) 事業構想大学院大学・准教授

1975年、山口県宇部市生まれ。京都大学農学部卒業、同大農学研究科修了。英国ニューカッスル大学、農業・食料・農村発展学部にてPhD取得(2006)。東京農工大学21世紀COEプログラム研究員(講師)、同大生物システム応用化学府・産官学連携研究員、科学技術振興機構・社会技術研究開発センター・アソシエイトフェロー、東京工業大学グローバルリーダー教育院特任准教授を経て、2018年4月より現職。脱炭素は地域から。取り組めば取り組むほどWell-beingな地域づくりへ！



▶報告者

上園 昌武 (うえぞの まさたけ) 北海学園大学経済学部・教授

1969年生まれ、北海道出身。大阪市立大学大学院経営学研究科後期博士課程単位取得退学。島根大学法文学部教授を経て、2020年より現職。専門は資源・エネルギー経済論。主な著書に『エネルギー自立と持続可能な地域づくりー環境先進国オーストリアに学ぶ』(共編著、昭和堂、2021年)。脱炭素社会への移行は、地域発展や生活の質の向上などを達成する社会変革です。エネルギー自立地域づくりをどのように実現していくか考えましょう。



豊田知世 (とよた ともよ) 島根県立大学地域政策学部・准教授

1981年、岡山県生まれ。広島大学大学院国際協力研究科博士後期課程修了、博士(法学、学術)。専門は、環境経済学、開発経済学、エコロジカル経済学。著書に『グローバルゼーションの中のアジア:新しい分析課題の提示』弘前大学出版会2012年(共著)、『循環型経済をつくる』農文協2018年(共著)など。地域にある自然エネルギーを利用することで、地域全体の社会、経済、環境にどのようなメリットがあるのか、見える化するツールの作成を目指しています。



歌川 学(うたがわ まなぶ) 産業技術総合研究所・主任研究員

東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士前期課程修了、博士(工学)。産業技術総合研究所勤務。専門は機械工学。温暖化対策評価、脱炭素シナリオ研究に従事。地域の脱炭素は省エネ再エネの中から選択可能、脱炭素で多くの地域がエネルギー自立・再エネ輸出地域になる可能性があります。それを地域発展に結びつけるには省エネ再エネとも地域主体が担い手になる必要があります。脱炭素社会像を地域で議論し進めることが重要です。



上山 隆浩(うえやま たかひろ) 岡山県西粟倉村地方創生特任参事

1960年、岡山県西粟倉村生まれ。京都産業大学卒業。2017年より現職。「百年の森林構想」を掲げ西粟倉村内の地域資源を活かしながら地域活性化に取り組み2019年にSDGs未来都市(内閣府事業)に選定された。現在は、木材生産だけでなく森林価値最大化を目指す「森林RE Design」や「フォレストシティプラットフォーム」など新たな地域経営モデルの構築を目指している。再生可能エネルギーが中山間地域の持続性に果たす役割をお話できたらと思います。



氏原 岳人(うじはら たけひと) 岡山大学学術研究院環境生命科学学域准教授

1981年生まれ。岡山大学大学院環境学研究科修了。日本学術振興会特別研究員(DC1)等を経て、2016年より現職。博士(環境学)。専門は都市・地域計画学。持続可能な都市・地域構造や計画手法について土地利用解析や交通行動分析を用いて研究する。参加者の方々とともに、「中山間地域に住む方々の移動の足を、どのように確保すべきか」、新しい移動のかたちを考えたい。



鈴木 春菜(すずき はるな) 山口大学大学院創成科学研究科・准教授

1983年、愛知県豊橋市生まれ。東京工業大学大学院修了。博士(工学)。専門は交通計画。2012年より現職。地域への愛着や幸福感といった人びとの意識に移動が及ぼす影響や、地方都市での持続的な交通システムのあり方を研究しています。中山間地での持続的な暮らしは中国地方の移動のあり方について考えるうえでなくてはならない視点だと感じています。皆さまと一緒に議論を深めさせていただく機会を、大変楽しみにしています。



森山 昌幸(もりやま まさゆき) 株式会社バイタルリード代表取締役

1960年、島根県大田市生まれ。広島大学大学院国際協力研究科修了。博士(工学)。技術士(総監、建設)。ゼネコン、建設コンサルタントを経て1998年に起業。中国地方5県及び四国地方北部における地域公共交通計画策定、公共交通利用促進など数多くの交通関連業務に従事。過疎型MaaSとして配車システムTAKUZOによる定額乗合タクシー導入を展開中。これからの交通について、深く議論しましょう！



新田 直人(にした なおと) 農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課・調整官

1972年、千葉県市原市生まれ。東京大学文学部卒業。1996年、農林水産省入省。半島(能登半島・紀伊半島等)の振興や離島漁業の振興などを担当し、全国の条件不利地域を回る。2017年より4年間、岡山県真庭市役所に勤務。林業・木質バイオマスやスマート農業の推進に取り組みつつ、週末は父親の故郷である島根県邑南町の古民家で暮らしていた。2021年より現職、都市農業の推進を担当。趣味は、農作業と山登り。中国山地にルーツを持つ者として、中国山地のネットワークづくりに協力できればと思っています。



持続可能な地域社会総合研究所は、2017年に設立された一般社団法人の研究所です。

私たちは、地域に住む人々と共に、日々の暮らしの舞台である地域社会から、世界を持続可能なかたちに創り変えていこうと考えています。

◆事業概要◆

<研究体制>

所長1, 理事1, 研究マネージャー2
 特別研究員8(共同研究を連携実施、非常勤)
 <共同研究契約総額 8,293万円>
 *第5期決算=2020年6月~2021年5月



本部オフィス「さざ波テラス」は、美しい日本海の浜辺。15秒で、サーフィン開始可能です。

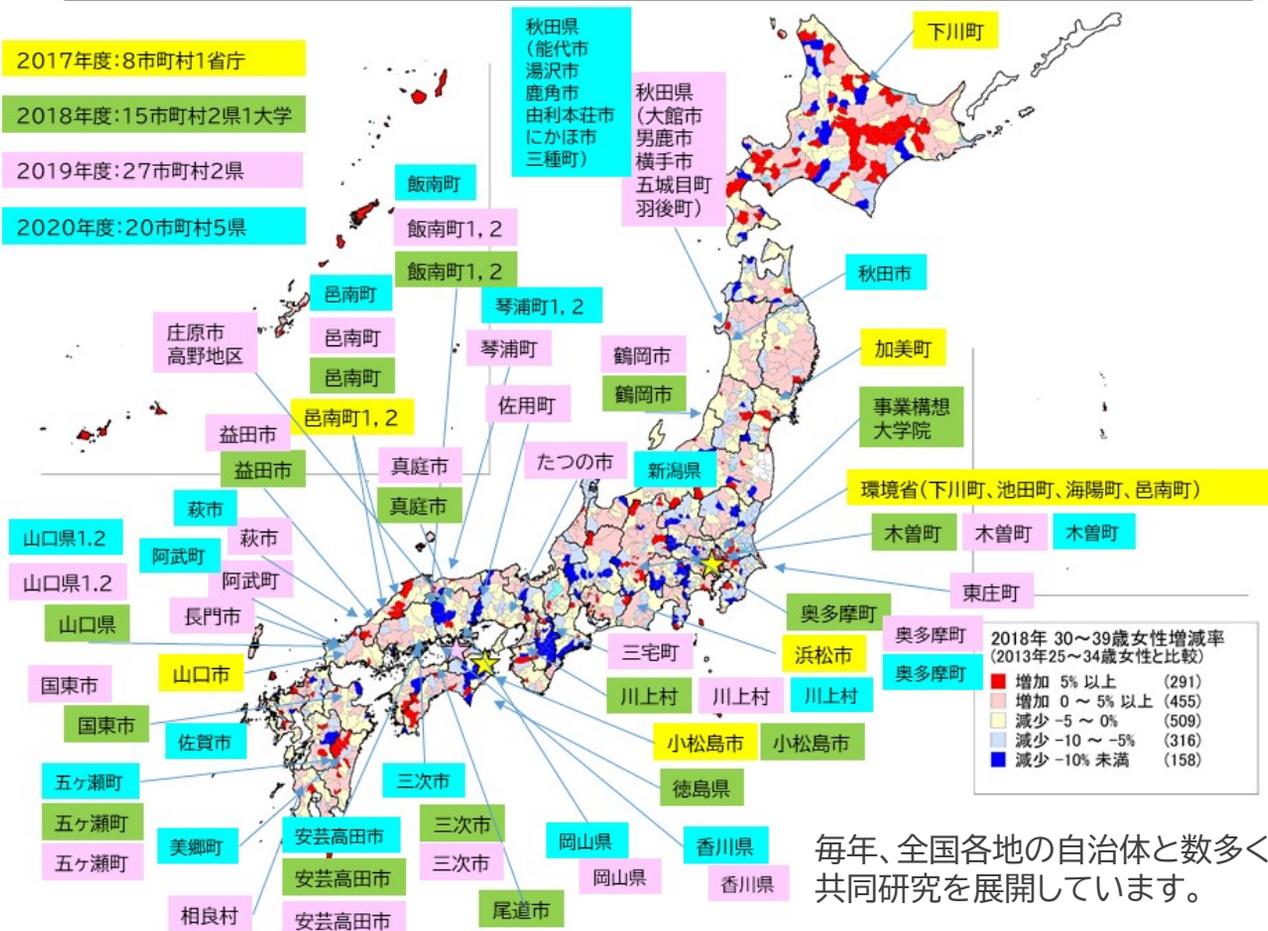
◆持続地域総研の3つの方法論◆

- ①地域社会に関する綿密な診断
 人口・介護・産業・経済・コミュニティ等を定量&構造分析し、「見える化」&シミュレーション
- ②地域社会同士の共進化を促進
 同時多発の地域チャレンジをつなぐ「マス・ローカリズム」手法による地域政策形成
- ③「多様性」・「多角性」・「多重性」に基づく持続可能な地域社会の未来設計とマネジメント

◆地域社会の未来形を担う研究員募集◆

持続地域総研では、今回の全国研究フォーラムのテーマ「地域社会の未来像」を総合的に研究・実装していく研究員(2022年4月着任希望)を募集します。
 定量的な分析を基に、分野を横断した全体最適を設計し、柔らかく地域の住民&行政と協働できる人材を求めています。
 詳しくは、研究所HPをご覧ください。

◆持続可能な地域社会総合研究所 共同研究実施地域 2017~2020年度◆



毎年、全国各地の自治体と数多くの共同研究を展開しています。